

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270300504		
法人名	有限会社 プレア企画		
事業所名	グループ・ハウス およりの郷		
所在地	〒855-0874 島原市鎌田町丁4133番地		
自己評価作成日	平成 22 年 10月 1日	評価結果市町村受理日	平成 22 年 11月 12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在、「およりの郷」では、9名の入居者の方たちが生活しておられます。9名全員が女性という点が当ホームの大きな特徴といえます。女性ばかりのため、いろいろと問題も起こりますが、職員が親身になって問題に対応しています。それに加え、当ホームでは、より家庭的な雰囲気づくりを最も大切にしています。そのために入居者の方たちも、職員と入居者という関係よりも、孫や息子・娘と母親・祖母といった関係に近いものが見られます。支援の方針としては、9名の方たちの個性を大切にしながら、楽しみが持てる生活を送ることが出来るように介護等を実施しています。また、入居者の家族の方たちの支援にも力を入れています。家族からの相談には誠意を込めて、応じるようにしています。このように当ホームでは、入居者様の家族も方たちも含めて、家庭的で暖かい介護を行っています。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くにお寺や保育園があり、噴火後に住宅地として出来た団地の一角にある。ホームからは普賢岳・復興アリーナ・有明海が見渡せる。理念の「のどか」「のんびり」「ゆったり」は、家庭的で人情味あふれた明るい家庭を目指したいという思いから作られた。利用者同士もよく語り過ごせることが自慢で会話がよく交わされており、歌を自然に皆で口ずさみ親子のような関係が保たれている。また、利用者同士も仲が良く、リビングでテレビをみたり、時には一緒に昼寝されることもあり、島原半島グループホーム対抗風船バレー大会では優勝をされている。今後は、地域の方の交流も自然に深まり訪問者も増えているので、近くの保育園との交流を図り、親交を深めて行く意向である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成 22年 10月 21日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元との関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営者、管理者、スタッフが業務に取り組む心構えを基本として理念を作り上げた。	施設長とスタッフで掲げられた「のどか、のんびり、ゆったり」の理念は設立以来変わっていない。自然に毎日していることが理念となっている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等に積極的に参加し、地域の方たちと入居者の皆さんとの交流に努めている。	町内会への加入はないが、地区の秋祭りに参加している。近所の方から野菜などを頂いたり、おやつ持参で月に1回は遊びに見え、利用者さんと仲良く昼食や歌などを歌って帰られる関係がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや実習生を積極的に受け入れて介護技術の講習や認知症理解への啓蒙活動等を行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーの中に地域の代表の方の参加もあり、入居者の方の近況報告だけではなく、グループホームの業務の流れや介護保険等についての質疑応答なども行い、家族や地域の方たちとの相互理解に努めている。	運営推進会議は2カ月に1回開催されているが地域の方の参加を検討中である。内容が事業所からの報告になっており、活発な意見交換とはいえない。	参加メンバー(近所のお寺や保育園)の人選を検討し、参加メンバーからの質問、意見、要望など議事録を残されることを期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の実施する研修等に出来るだけ参加するようにしている。	施設長は島原半島グループホームの役職であり、職員の方も知的障害者の手をつなぐ育成会、精神障害者の家族会などの役職もされており市町村との連携がとれている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、拘束の実績は無いが拘束についての意見交換を職員間で行っている。	身体拘束のマニュアルがあり、身体拘束について理解し、意見交換はあるが研修の実施記録がない。	マニュアルを活用し、職員の研修実施を検討され記録を残されることを期待したい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、職員間で意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉士の有資格者の職員を中心として職員間で意見交換を行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情発生時には、話し合いの場を設けて解決に努めると共に、第三者機関の説明もしている。	入居契約時に説明し、表情や行動で感じたことをケース記録に記入し、家族との連絡シートを作成し運営に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	不定期では有るが全体会議を行い、その中で意見交換を行っている。	意見交換会は年3回(不定期)行われている。職員は管理者に意見や提案を言える関係である。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて、経営者・管理者が個別面談を行い、相談等を行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験の浅い職員には、研修等の参加を積極的に行うと共に、ベテラン職員によるOJT教育等も実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修時には、他機関の職員との交流を積極的に図り、ネットワーク構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント情報を基にして、生活歴等を考慮した本人に見合った介護を行うことに心がけている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテーク時より家族の意見をよく傾聴して、家族も含めた包括的な支援を心がけている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族・本人とよく話し合い、ニーズの決定を行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内の簡単な業務(洗濯物たたみやテーブルふき等)を共同作業という意識を持って行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時等に、話し合いの場を設定して包括的な支援を行っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのかたが来所された時は、快く迎えてこれまでの関係が継続できるようにしている。	お正月やお盆は日帰りされたり、外泊の方(2人)もある。電話は自分でかけたり、連絡の時本人と変わって話してもらっている。買い物は週1回支援している。ドライブも兼ねて受診についていく方もある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事等を通じて入居者間の交流を図り、全員が楽しく過ごせるように、働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談があれば、親身になって応じている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分自身で意思表示が出来ない方は、家族情報やアセスメント情報、日々の様子等で感じたことを職員が意見交換し、御本人の気持ちを汲むことが出来るように努めている。	基本情報・フェイスシート・アセスメントシート等にADL(日常生活動作)等の状況や介護実践要綱を記録している。職員は経験の長い職員からケアの伝達を受け、共有することでその人に合ったケアを実践している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インタビュー・アセスメント時に、家族や本人から得た情報を基にしてケア・プランを作成し、それに基づいて、いままでの生活環境を少しでも保てるように支援している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース・記録や連絡帳・申し送り等を活用して、継続的な支援が行えるように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意見や職員の意見等を、ケース会議を通じて介護支援専門員が取りまとめて、ケア・プランに反映している。	本人と家族の希望を踏まえ、アセスメントやカンファレンス会議を行っている。3カ月毎のモニタリング(定期的)の実施と計画に沿った個別記録を参考に、次の計画に反映させ現状に合った計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を毎日記録して、日々の状態の把握に努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズが発生した場合は、ケース会議を開催して問題解決に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	インターネットや地域情報誌・研修会等を活用して、地域資源の把握に努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に、かかりつけの医療機関と連携を取り、入所後の連携構築に努めている。	基本的には入居前とかかりつけ医の変更はない。2週間に1回2～3か所受診の方もあり支援している。遠方の場合は家族の了解を得て、近くの医療機関に変更してもらっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を通じて、看護師との連携を図っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も医療機関と連携を取り、退院後の支援に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナル・ケアや重度化に関する研修を行い、将来に向け、準備を行っている。	ターミナルケアの実績はない。ホームの方針で医療機関での対応をされている。食事や水分が摂れなくなった時など、救急車を呼ぶ時の体制を整えている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、救急訓練法の講習を積極的に受講している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在、災害時避難訓練の実績は無いが、消防等の防災機関と連携をとり、実施したいと考えている。	スプリンクラーを設置し、マニュアルや連絡一覧表の準備がある。自主訓練や消防署立会の2回目の訓練を10月に実施予定である。しかし反省、感想の記録や備蓄の準備はされていない。	災害時に備えて、地域との協力体制を取られ記録を残されること、備蓄の準備、利用者情報の持ち出しファイルの整備(個人の全身写真つき)されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本情報やケア・プランに基づき、個々人に見合った支援を行うように心がけている。	職員には守秘義務の誓約書を書いてもらっている。コールで呼ばれる時はノックして顔を出して声かけをしている。パットやリハビリパンツの交換は各自の居室で見えないように心掛けて行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の業務の中で、本人との会話の中から、本人が望む生活を聞き出し、少しでも実現するように心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が出来る限り、本人のペースで生活できるように努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に職員が気を配り、身嗜みの支援を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく食事が出来るように、職員全員が心がけている。	食事は職員も同じ食事をされているが、誤嚥防止のため見守られている。芋ごはんや、1日と15日の赤飯を楽しみにされている。残存能力を活かしながら、お茶の準備、箸ならべ、テーブルふきなどをお願いしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成したメニューを基に、バランスが取れた食事を提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各自の出来る部分と出来ない部分を見極めて、本人に適した支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護の必要な入居者に対しては、自尊心に十分配慮した支援を行っている。	利用者は意思表示をされる方が多く、排泄表で確認してトイレ誘導をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多く含まれる、食材を使用したり、医療機関と連携して服薬による便秘予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人のADL状況に見合った支援を行い、「楽しく入浴する。」ことを前提としている。	入浴は2日に1回から3日に1回され、朝からも入れる。入浴拒否者が1名おり、言葉かけや職員を変えて対応している。歌が好きな方はお風呂でもよく歌われ楽しみにされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人の習慣に合わせた支援を行い、安心感が持てて、生活できるようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬ミスを起こさないことを最大限の支援として、服薬後は、様子観察等を行い、本人の状態把握に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームの生活の中で、その人に見合った役割分担を行い、生活の中に生き甲斐が持てるように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日課の中に、ドライブや散歩を取り組み、外出の機会を確保するようにしている。	通院帰りの買い物支援をされている。家族支援での墓参りや法事にも参加される。フラワー公園やソーメン流し(眉山ロード)へのドライブ、初市、祭りの踊り広場見物の支援や復興アリーナでのサイレント映画鑑賞(弁士つき)も楽しまれた。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分自身で金銭管理が出来る方は、職員支援の下、管理していただいている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・通信等の制限は、常識の範囲内で行っていない。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、職員と入居者の方たちの共同制作のハンド・クラフト等で飾りつけがしてあり、暖かい雰囲気を作っている。	ハンドクラフトのコスモスが季節を感じさせ、猫が利用者の横で寝そべり、ゆったりしているのを見守る姿が微笑ましい光景であった。利用者はリビングで過ごされることが多く、利用者の掛け声で合唱になっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内に、ソファを配置して、入居者間の憩いの場として、活用している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、個人の自由空間として、安全上問題の無いものは、持ち込み自由としている。	利用者の状態に合わせてベッドや、簡易たたみ使用にての布団の利用が可能である。利用者によっては、入居前の馴染みのものがぎっしりと持ち込まれ、居室を我が家と捉え落ち着ける環境となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々人の適正に合わせた役割分担を決めて、情緒を配慮しながら生活の活性化に努めている。		